

寒し	赤々と日暮の雲の寒さかな	2019.12. 4	十二月	十二月半ばとなりぬ柚子灯る	2019.12. 3
	<u>赤々と日暮の空の寒さかな</u>			十二月半ばに柚子を灯したる	
	<u>雲厚く日差を塞ぐ寒さかな</u>	2019.12. 8		十二月半ばの頃の柚子ひとつ	
短日	短日の何をする間もなかりけり	2019.12. 3	冬至	十二月半ばの頃の柚子を買ふ	2019.12. 4
	短日の何をする間もなく暮るる			十二月半ばの頃の柚子の山	
	<u>短日のそそのかされてゐるやうな</u>			柚子も出ていよいよ忙し十二月	
	電柱は連なるならひ日短	2019.12. 3		灯るごと柚子の急かせる十二月	
	電柱の行先知らず日短			灯るごと柚子の色香も十二月	
	電線でつなく電柱日短			灯りたる柚子の急かせる十二月	
	言葉まで短く忙し日短	2019.12. 3		十二月半ばとなれば柚子灯る	
	言葉まで短くなりぬ日短	2019.12. 4		灯点さず回送バスの十二月	
	言葉までちよつと忙しく日短			郊外に線路の伸びる十二月	
	言葉までちよつと詰りて日短			郊外に線路伸びゆく十二月	
言葉まで寸詰りなり日短		郊外に伸びる線路も十二月			
言葉まで躓くやうに日短		一つ買ふ冬至に早き柚子なれど	2019.12. 3		
<u>言葉さへ躓くやうに日短</u>	2019.12.10	買うてみる冬至に早き柚子なれど			
冷たし	<u>ごつごつと柚子の色香の冷たさよ</u>	2019.12. 4		冬至には少し間のある柚子を買ふ	
	ふれてみて柚子の黄色の冷たさよ	2019.12. 4		どん底の冬至しばらく上り坂	2019.12. 3
冬	毛並み良きものを纏うて冬の街	2019.12. 1		どん底の冬至を過ぎて坂きつし	
	毛並良きものを纏うて冬の街	2019.12.10		どん底の冬至を過ぎて急坂へ	
	毛並よきものを纏うて冬の街			どん底の冬至の後の下り坂	
	毛並よきもので装ひ冬の街			太陽のどん詰りなる冬至かな	
	<u>罪深き冬の埃をなきものに</u>	2019.12. 8		<u>日も月もどん詰りなる冬至かな</u>	
	<u>冬の句を何度も読んで暖まる</u>	2019.12. 8		どん底の冬至を過ぎてまだ下る	2019.12. 4
	<u>冬の句を幾つも詠んで暖まる</u>			底割れやいよいよ冬至を過ぎてより	2019.12. 4
冬帝	冬帝が朝礼台を吹き飛ばす	2019.12. 1		底割れやいよいよ冬至も過ぎにけり	
	<u>冬帝が朝礼台を目の敵</u>			底割れの寒さとなりぬ冬至過ぎ	
冬の日	<u>冬日いま膝から臍の辺りまで</u>	2019.11. 2		底割れの寒さなりけり冬至過ぎ	
	<u>冬の日の眩しかりける朝湯かな</u>	2019.12. 8		底割れの寒さいよいよ冬至過ぎ	
				底割れの寒さに向ふ冬至過ぎ	
				冬至過ぎ寒さもいよいよ底割れに	2019.12. 5
				底割れの寒さは冬至過ぎてより	
				底割れの寒さ冬至を過ぎてより	
				冬至過ぎいよいよ寒さも底割れに	
				冬至過ぎたれば寒さも底割れに	
越年				年越していよいよ寒さも底割れに	2019.12. 5
冬至				冬至には根・人・柑を食へといふ	2019.12. 5
				<u>食へといふ根・人・柑や冬至の夜</u>	
北風				北風は北からの風南へと	2019.11. 2
				<u>北風は北からの風みんなみへ</u>	2019.12. 5

雪女	<u>雑踏に連れ出されたる雪女</u>	2019.12. 1	大根	<u>小流れに大根を洗ひ手を洗ひ</u>	2019.12. 1
冬田	郊外に出でて日差や冬の畑	2019.12. 4		日の本の守護仕る大根かな	2019.12. 1
	冬の田に戸締りのなし風の中	2019.12. 4		人参を守るが如き大根かな	2019.12. 5
	冬の田の開つ放しや風の中			人参にしばし寄り添ふ大根かな	
	冬の田の開つ放しでありにけり			人参の隣りに置きし大根かな	
	<u>冬の田の開つ放しや日が差して</u>			人参の隣りに置かれある大根	
冬の波	<u>冬の波白煙あげて岩を打つ</u>	2019.12. 4		人参の隣りに置いてある大根	
冬の水	<u>冬の水週に一度は替へてやる</u>	2019.12. 7		人参の隣りにあるは大根なり	
着膨れ	毛並み良きものを纏うて着膨れて	2019.12. 1		人参の隣りに置くは大根なり	
	毛並み良きものを纏うて着膨るる			人参の傍に大根置いてある	
	着ぶくれと言ふにあらねど椅子の足	2019.12. 7		人参の傍にある大根かな	
炬燵	着ぶくれしままに炬燵の下僕かな	2019.12. 1	葱	<u>鴨の句を考へをれば葱の句も</u>	2019.12. 1
	主とも又は炬燵の下僕とも			葱の句を考へをれば鴨の句も	
	主とも温き炬燵の下僕とも			大根と葱の買物袋なり	2019.12. 1
	主人とも温き炬燵の下僕とも			突つ込んで買物袋葱大根	
	冬帝を逃れ炬燵の下僕なる			突つ込んで買物籠や葱大根	
	<u>冬帝に遠く炬燵の下僕なる</u>			<u>突つ込んで葱や大根やレジ袋</u>	
				<u>突つ込んで葱や大根やマイバッグ</u>	
絨緞	絨緞を踏み固めつつ籠りをる	2019.12. 1		レシートは葱の長さに匹敵す	2019.12. 1
	絨緞を踏み固めつつ冬籠			レシートは葱の長さとなりけり	
	絨緞は素足が良けれぬくぬくと			レシートは葱の長さに近づけり	2019.12. 5
	絨緞は素足が良けれ摺足で			レシートは葱の長さに負けぬほど	
	<u>絨緞の踏まれ踏まれて冬を越す</u>			葱よりも長きレシートするすると	
ストー	<u>ストーブの小窓開けけり刮目す</u>	2019.12. 3		葱よりも長きレシート吐き出せる	
日向ぼ	手のひらを机の上に日向ぼこ	2019.12. 3		葱よりもレシート長くなりけり	
こ	<u>手のひらは机の上に日向ぼこ</u>			吐き出せるレシート葱の長さほど	
柚子湯	しまひ湯の柚子湯に肌を繕へる	2019.12. 4		するすると葱の長さのレシートが	
	眠たさの柚子湯に肌を繕へる			するすると葱より長きレシートが	
	<u>眠たさの柚子湯に肌を慈しむ</u>	2019.12. 5		レシートは葱より長くするすると	
	<u>眠たさのもう寝るだけの柚子湯なり</u>			レシートが葱より長くするすると	
クリス	<u>毛並よきものを誂へクリスマス</u>	2019.12.10		レシートは葱より長し年の暮	
冬の鴟	<u>カーテンの分厚く垂れて冬の鴟</u>	2019.12. 8		レシートが葱より長し年の暮	
水鳥	水鳥の日陰にをるや日向にも	2019.12. 5		<u>葱よりも長きレシート年の暮</u>	
	水鳥は日陰にをるや日向にも	2019.12.10			
	水鳥は日向にをるや日陰にも				
	<u>水鳥の風を逃るる日陰かな</u>				
	<u>水鳥の日向にをるや日陰にも</u>				
都鳥	<u>ガス灯に四面のガラス街ゆりかもめ</u>	2019.12. 1			

師走	ガス灯に四面のガラス街師走	2019.12. 1
	灯のごと柚子の急かせる師走かな	2019.12. 4
年の暮	灯りたる柚子の色香も年の暮	2019.12. 4
	灯点さず回送バスや年の暮	2019.12. 3
	灯を消して回送バスや年の暮	
	灯を消して回送バスや年詰る	2019.12. 4
暦売	雑踏に黒子の如く暦売	2019.12. 1
	雑踏の尽きる辺りの暦売	
	雑踏の四方に散りゆく暦売	